

5 「健康と歴史・文化の路」の整備方法

(1) 整備方法の基本的考え方

「健康と歴史・文化の路」は、車両の速度抑制や注意喚起、道路景観の向上を図り、歩行者の安全性・快適性を高めることをめざします。

ア 安全・安心の確保

「健康と歴史・文化の路」における安全・安心を確保するため、異なる材質の舗装を組み合わせることにより、視覚的に歩道部・車道部の空間区分を明示します。また、幹線道路からの通り抜け車両の抑制を図るため、幹線道路からの入口部に注意喚起の表示を行います。

○歩行者空間の明示

現道幅員のなかで、異なる材質の舗装を組み合わせることにより、視覚的に歩行者空間と車両空間とを区分します。なお、舗装により視覚的に歩行者空間として示した部分も構造的には車両の走行を可能とします。

○入口部の明示

市内の主要道等においては自然を楽しむ観光などの季節的な交通集中があり、生活道路への通過交通の抑制が課題です。こうしたことから、「健康と歴史・文化の路」と交通量の多い道路との交差点付近において異なる材質の舗装を用いることによって、周囲とは異なる位置付けが与えられた道路（「健康と歴史・文化の路」）への入口部であることを明示し、視覚的に進入抑制や速度低減を促します。

○狭小幅員部分の拡幅

特に幅員が狭い部分については、通行車両や歩行者の安全確保の観点から地権者の同意を得て拡幅整備します。また、沿道の地権者の協力により、退避・交換場や休憩施設等を設置します。

イ 道路舗装の材質

道路舗装の材料については、道路の機能と景観の向上、歩く人の安全性や快適性などが重要です。

ウ 区間特性に応じた整備区分

「健康と歴史・文化の路」整備路線 8 路線の道路の背景となる立地環境や沿道環境を通観するとともに道路利用上の特徴を考慮して、「健康と歴史・文化の路」の区間特性を「歴史的修景区間」「賑わいのある区間」「標準的な区間」の大きく 3 つに区分しました。

「健康と歴史・文化の路」の整備は、道路が立地する環境・景観に合わせた区間特性（「歴史的修景区間」、「賑わいのある区間」、「標準的な区間」）の区分に応じて行い、それらの連続性を保つことが必要です。

○「健康と歴史・文化の路」の区間特性

整備路線の立地・沿道環境	道路利用上の特徴	区間特性
青梅宿の歴史的な面影を残す蔵等が存在する地区	沿道の歴史的街並みと道路が意識される	歴史的修景区間 (歴史的な沿道環境を残す区間)
駅周辺の商業地・市街地	沿道の賑わいある街並みと道路が意識される	賑わいのある区間 (中心的な市街地内の区間)
山や樹林を背景とした住宅地	視界が広がり、背景の山並み・緑が意識される	標準的な区間 (低層戸建てを中心とする住宅地や郊外部の集落内の区間)
山裾に展開し樹林などと近接する集落	視界が広がり、背景の山並み・緑・豊かな自然がより強く意識される	

エ 使用素材

(ア) 舗装材

歩行者空間を示す舗装材は、区間特性を踏まえたうえで、歩きやすさやシンプルさを有したものとし、施工性、耐久性、経済性を考慮して選定します。

車両の走行空間は全ルートともアスファルト舗装とします。

(イ) 縁石

歩道部・車道部の空間区分を示す縁石は、質感のある自然石縁石とします。

(ウ) 側溝蓋

側溝の本体は現状維持とし、溝蓋・柵蓋のみの付け替えを基本とします。蓋表面の素材は歩行者空間の舗装材との取り合いを考慮します。

オ 入口部の明示

交通量の多い主要道等から「健康と歴史・文化の路」への入口部において、視覚的に進入抑制や速度低減を促すため、入口を示す舗装を設けます。設置位置は、停止線や「とまれ」の路面表示と一体的に考慮します。

(2) 整備方法

ア 区間特性格の使用素材

区間特性に応じて使用素材を設定しました。

○区間特性格の使用素材の組合せ(舗装パターン)

区間特性	舗装		縁石	側溝蓋	街路灯	防護柵 (ガード レール等)
	歩行者 空間	車両 空間				
歴史的 修景区間 (ルート①の 一部区間)	いぶしレンガ 230×114×60	アス ファ ルト 舗装	自然石縁石 (灰御影石、 または白御影石) 120×150×600 バーナー仕上げ	洗出し側溝蓋	状況に応じて LED照明灯に 転換	ガードレー ルへの景観 色の着色、 またはガー ドパイプへ の転換
賑わいの ある区間 (ルート①の 一部区間)	自然石平板 300×400×60 バーナー仕上げ			洗出し側溝蓋		
標準的な 区間 (ルート①の 一部を除く 全ルート)	洗出しアスファルト舗装			スリット側溝蓋		

○歴史的修景区間：いぶしレンガ舗装

青梅宿の落ち着いた雰囲気と調和し、かつ、歩行疲労の少ない素材として、いぶしレンガ舗装を採用します。

○賑わいのある区間：自然石平板舗装

この区間は、沿道に建物が連続し、視界が狭められて沿道建物と路面が景観の主役となります。歩行のリズム感と視覚的に調和し、沿道の街並み整備への意識喚起も期待するものとして、自然石平板舗装(バーナー仕上げ)を採用します。灰御影石または桜御影石・鏝御影石のなかから色味を検討します。

○標準的な区間：洗出しアスファルト舗装

この区間は、背後の自然が意識され、視界が伸びやかに広がり遠近の沿道景観が主役となります。路面自体が最も意識されにくく、かつ、長距離の歩行にやさしい素材として、洗出しアスファルト舗装(自然石骨材)を採用します。

イ 歩道部・車道部の幅員構成

「健康と歴史・文化の路」は、歩行者空間を優先的に確保し、一定の幅員で連続させることとして、歩行者の安全な通行を重視します。

(ア) 歩行者空間

○歩行者・車椅子の通行を考慮して、歩行者空間の幅員は1.0mを基本に確保します。

○現況道路の大部分の区間は、白線による外側線が表示されており、歩行者は外側線の沿道部分を歩いています。この外側線の位置は歩行者の安全性確保の観点から設置されたものであるため、整備路線の歩行者空間(歩道部)は外側線設置側を基本とします。

(イ) 車両空間

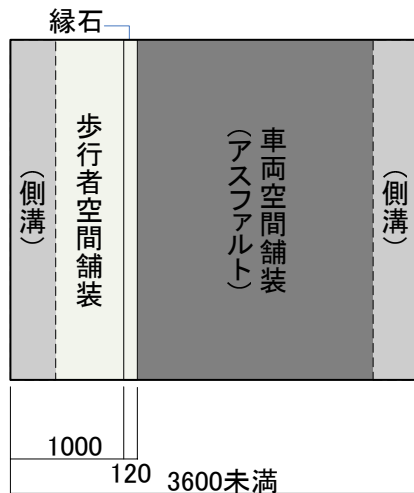
- 車体幅員と走行上の余裕幅をあわせ、車両空間の幅員は 2.2m を基本に確保します。
- 歩行者空間を優先的に確保したみちとしての視覚的効果により運転者の注意を喚起し、減速を促すものとします。
- 歩行者空間とした部分も構造的には車両走行を可能とします。

○歩道部・車道部の幅員構成

視覚的な空間		歩行者空間幅員(側溝を含む)	車両空間幅員(側溝を含む)
基本的考え方		一定の幅員で連続させる	道路幅員の変化に応じて、車両空間の幅員を変化させる
幅員確保の指標		歩行者1人の通行(幅0.75m)、車椅子の通行(幅1.0m)を考慮する	車体幅員(幅1.7~1.8m)と運転走行上の余裕幅をあわせて幅員2.2mの確保を目安とする
道路幅員	幅員3.6m未満	幅員1.0mを目安に、一定幅員で連続させることを基本とする	道路幅員に応じて変化させる
	幅員3.6m以上	幅員1.3mを目安に、一定幅員で連続させることを基本とする	道路幅員に応じて変化させる

※歩行者空間は歩行者・車椅子の通行を、車両空間は車体幅員と運転走行上の余裕をそれぞれ考慮して、幅員確保の指標をもとに検討した。その結果、道路幅員を 3.6m 未満と 3.6m 以上に区分し、歩行者空間の幅員を設定した。

・道路幅員 3.6m 未満の場合の幅員構成



※道路幅員 3.6m 未満の場合は、幅員減少に応じて車両空間を減少させる

・道路幅員 3.6m 以上の場合の幅員構成



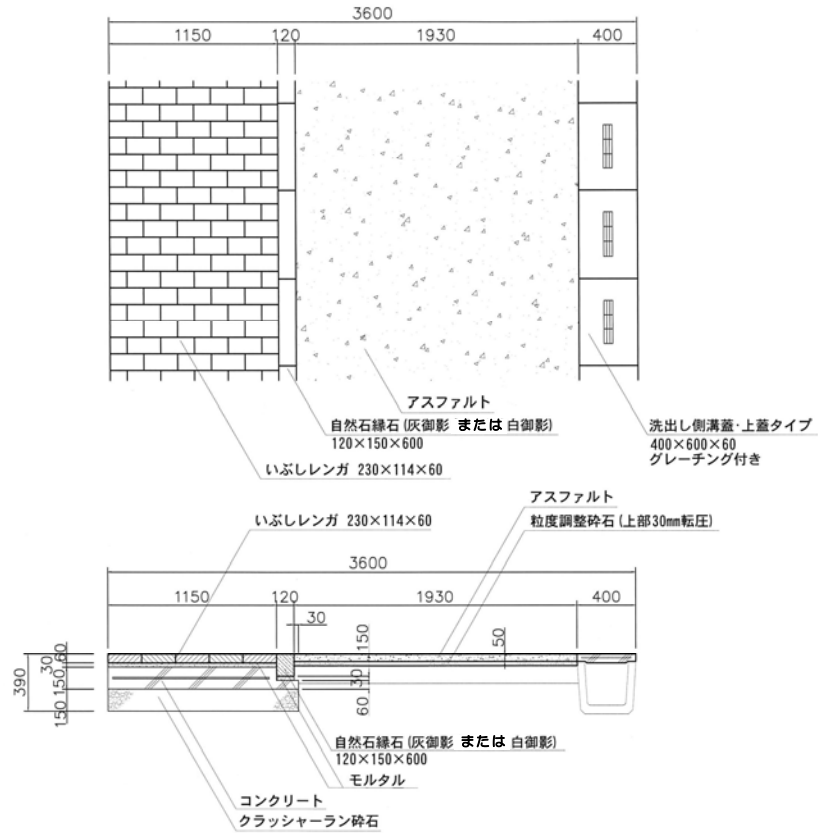
※道路幅員 3.6m 以上の場合は、幅員増加に応じて車両空間を増加させる

ウ 区間特別の舗装構造

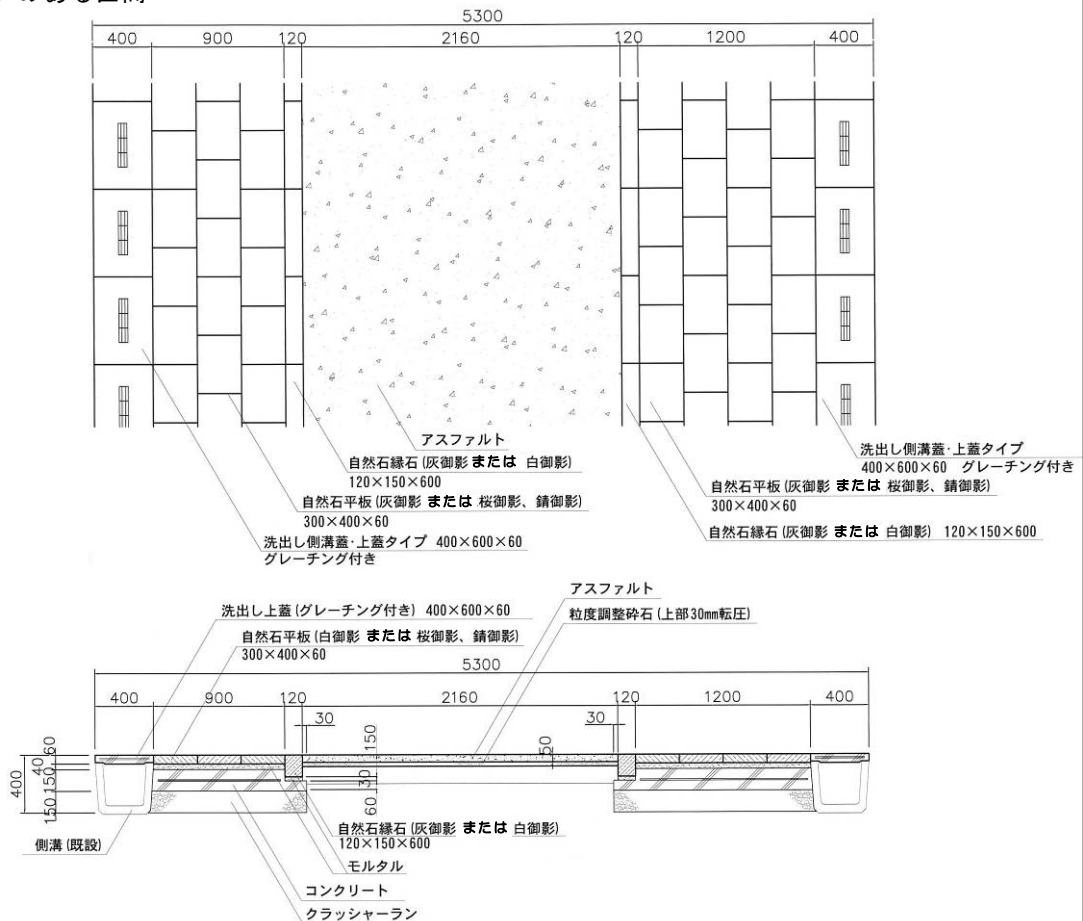
区間特別に舗装構造を選定しました。

○舗装標準図

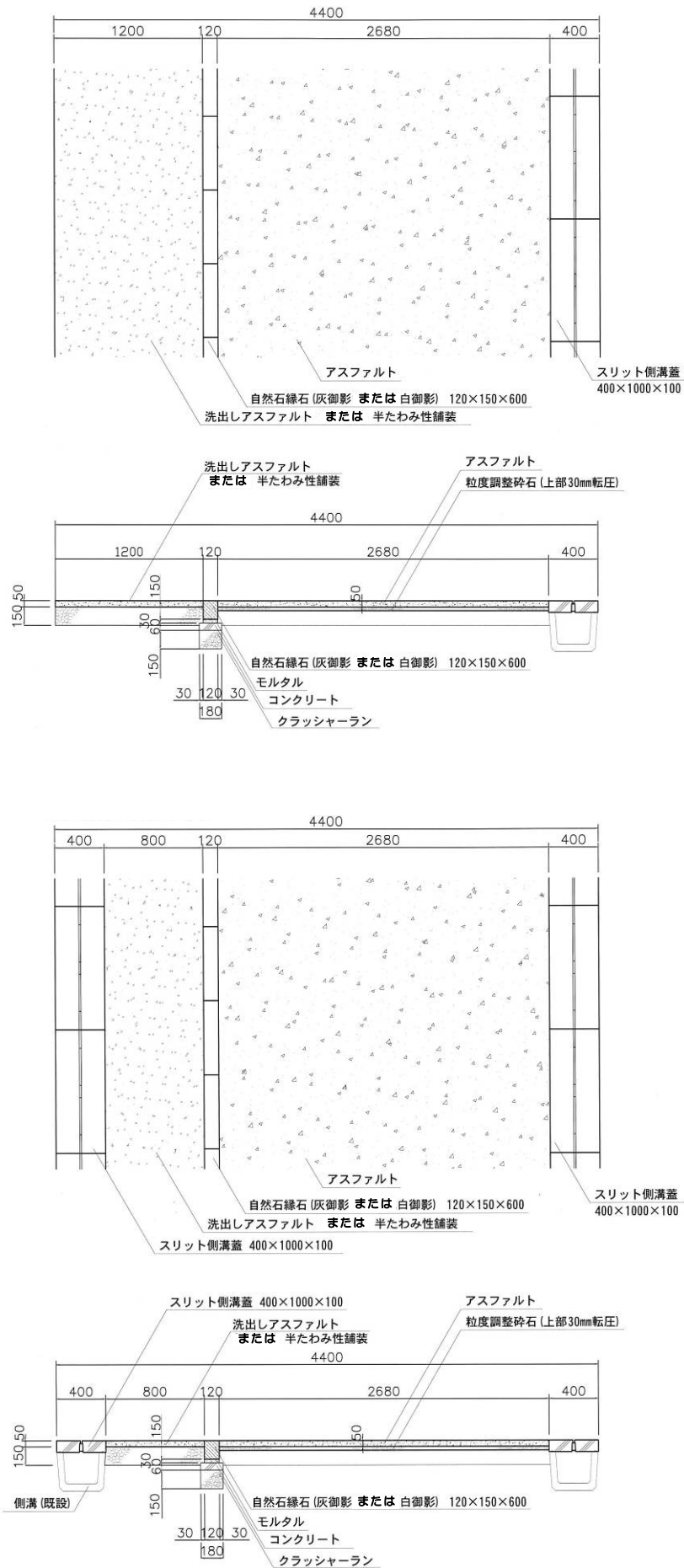
・歴史的修景区間



・賑わいのある区間



・標準的な区間



エ 入口部・交差点の舗装

(ア) 入口部の舗装

交通量の多い幹線道路から地域の生活道路でもある「健康と歴史・文化の路」への入口を示し、進入車両の抑制と通行車両の注意喚起を促すため、一定区間を舗装します。

○使用素材は、区間特性に応じ、歩行者空間と同じ舗装材とします。

○舗装位置は停止線より後退することを基本とします。

○舗装の幅は、歴史的修景区間・賑わいのある区間においては1.5m、標準的区間では2~3mを基本とし、道路幅員に応じて設定します。

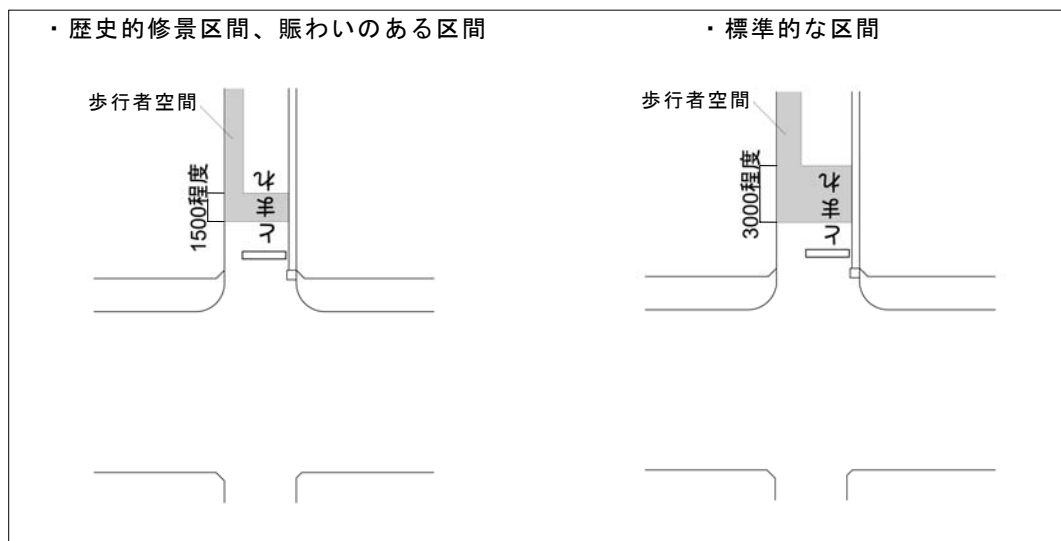
- ・レンガ・自然石平板は目地を持ち車両空間との材質感の違いが強調されるため、舗装の幅はその背後に連続する歩行者空間の舗装とのバランスを考慮して1.5mと設定します。
- ・車両空間との材質感の違いが比較的小さい洗出しアスファルト舗装は、舗装の幅を広目に確保して入口部を強調する効果を高めるため、2~3mとします。

○停止線の背後の「とまれ」や「通学路」表示との取り合いのおさまりに留意します。

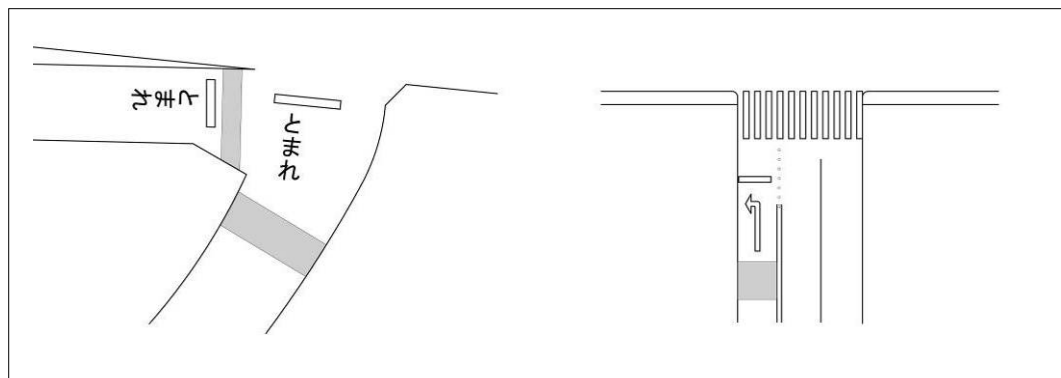
- ・「とまれ」や「通学路」の文字上で舗装を切替えず、文字と文字との間で切り替えるように、舗装の幅に合わせて文字表示を調節します。

○「とまれ」や「通学路」の路面表示については、現状と同様にペイントで表示します。

○入口舗装の標準パターン



○隅切り付近の路面が複雑な形状の場合の入口舗装



(イ) 交差点の舗装

○交通量の比較的多い交差点

交通量が比較的多く、「健康と歴史・文化の路」への車両の進入抑制が望まれる地点においては、交差点内を全て歩行者空間と同じ舗装材により舗装します。

○交通量の比較的小さい交差点

交通量が比較的小なく、一定以上の幅員の道路との交差点については、「健康と歴史・文化の路」の歩行者空間の舗装を区切ることがを基本とします。

○非常に狭い路地との交差点

非常に狭い路地(幅員約 1.5m未満程度)との交差点については、特に交差点処理は行わず「健康と歴史・文化の路」の歩行者空間の舗装を連続させることを基本とします。

○交差点の舗装の標準パターン

